

はじめに

季報第80号「京都の海の水温変動」では、京都府沿岸の海水温の変動についてお話ししました。その中で、京都の海では1988～1989年を境にして、最低水温期の3月の表層海水温が平年よりも高い年が増え、それが持続していることを紹介しました。最近5年間に限ってみると、この現象に対応するかのよう、海に生息する生物の特異的な出現や重要な水産資源生物の行動の変化等が相次いで報告されています。

漁業者の皆さんは、これまでの経験から季節毎に出現する魚介類の種類や時期あるいは漁場におおよその見当をつけて操業されてきたと思います。しかし、最近の漁況を見る限りでは、出現時期が1～2ヶ月も早まる、暖海性の魚介類の出現頻度や量が増加しているなど特異な現象が目立ってきています。このような変化は近年の高水温を始めとする海洋環境の変化と関連していると考えられます。

そこで、今回の季報では、水温などの海洋環境が変化するとどのようなことが起こるのか、マイワシ、ブリ、サワラを例に整理してみました。